

## 専攻科目の履修について（2014年度入学者に適用）

### 1 キャリア・ショップシステムでの履修について

キャリア・ショップシステムでの専攻科目の履修は、学生のみなさんが、なりたい自分のキャリアを想定し、それにより近づくための専攻科目群を配置してあるキャリア・ショップの中から、自分で選んだ科目を履修することによって実践されます。1ショップ12単位以上を履修すると1メインショップが成立します。また、1ショップ6単位以上の履修で1サブショップが成立します。1メインショップは12単位以上履修しても構いません。また、メインショップとサブショップの組合せは自由です。

このメインショップとサブショップの組合せで、合計70単位以上専攻科目を履修すれば、共通教養科目40単位、そして1年次から4年次までに配当している演習科目と併せて卒業要件を充足することとなります。また、BSAP参加など海外で履修してきた専門科目は、40単位を上限に専攻科目として組み入れることができます。

具体的な履修方法としては、例えば、自分は将来メーカーに就職して生産管理の分野で活躍したいと考える場合には、【マネジメントベーシック】、【マネジメントアドバンス】に、【オペレーションズ・マネジメント】【会計ベーシック】を加えたショップからそれぞれ12単位ずつ履修して4つのメインショップとし（48単位修得）、これに【国際ビジネス】、【情報とメディア】、【国際社会と異文化理解】をサブショップとすれば（18単位取得）、将来メーカー系の国際ビジネスマンとして活躍するキャリアの素地を築くことができます。ショップ科目では70単位の修得が必要なので、選択外国語や体験型学修科目の履修によって、4単位を加えることとなります。

同様に、金融関係に就職して将来銀行員としてプロ意識を高めたい、公務員として地域社会に貢献するキャリアを築きたい、スポーツ用品開発に携わりたい、スポーツインストラクターとして心身の健康増進をサポートする仕事に就きたい等々、自分自身で決めていくからこそ学修にも真剣味が増してくるでしょう。詳しくは、図表9を参照して、将来を意識した専攻科目の履修を通して、努力の成果を一步一步確実に積み重ねていきましょう。

このように、キャリア・ショップシステムに配置された専攻科目においては、学生個人による選好という自主性を重んじながら、ショップ選択を通じて自ずとまとまりのある科目群の履修が可能となり、総じてそれらがキャリアの方向性をサポートする結果となります。実際のショップおよび履修科目選択に際しては、特に2年次の「教養演習」の担当教員と面談の上、できる限り自分の将来を意識した科目群の履修の組合せを実現してください。それによって、このキャリア・ショップシステムが学生個々に寄り添うサポートシステムとして機能することを期待しています。

<図表9 キャリアモデルと推奨シヨップ>

**【世界の人々と会い、モノや情報を交換して大きなビジネスに携わりたい】**

職業例：商社、メーカーなどの海外営業職、小売業の海外店舗スタッフ など

例1	メイン・シヨップ	国際社会と異文化理解	国際地域	マネジメントベーシック	国際ビジネス	プラス	外国語
	サブ・シヨップ	英語で学ぶ経営学	会計ベーシック				スタディー・アブロード

例2	メイン・シヨップ	マネジメントベーシック	国際ビジネス	会計ベーシック	オペレーションズ・マネジメント	プラス	外国語
	サブ・シヨップ	国際社会と異文化理解	国際地域				短期インターンシップ

職業例：外資系金融機関職員 など

例3	メイン・シヨップ	マネジメントベーシック	マネジメントアドバンス	経済学・ファイナンス	会計ベーシック	プラス	外国語
	サブ・シヨップ	国際社会と異文化理解	英語で学ぶ経営学	会計アドバンス			スタディー・アブロード

**【ビジネス・スタディー・アブロード・プログラム(BSAP)に参加し、グローバルビジネスで活躍したい】**

例4	メイン・シヨップ	留学プログラムⅠ	留学プログラムⅡ	マネジメントベーシック		プラス	BSAP
	サブ・シヨップ	英語で学ぶ経営学	国際ビジネス				外国語

**【生まれ育った町と人を元気にしたい】**

職業例：地方自治体職員、メーカー・サービス業のスタッフ、中学校社会科教諭・高等学校公民科教諭 など

例5	メイン・シヨップ	マネジメントベーシック	会計ベーシック	公共・地域マネジメント	現代社会の教養	プラス	短期インターンシップ
	サブ・シヨップ	情報とメディア	マネジメントアドバンス	オペレーションズ・マネジメント			教員を目指すなら教職課程

職業例：地域金融機関の職員 など

例6	メイン・シヨップ	マネジメントベーシック	マネジメントアドバンス	経済学・ファイナンス	会計ベーシック	プラス	短期インターンシップ
	サブ・シヨップ	会計アドバンス	公共・地域マネジメント	現代社会の教養			専門入門演習

職業例：ベンチャー起業、地域の課題に取り組むNPOスタッフ など

例7	メイン・シヨップ	マネジメントベーシック	情報とメディア	会計ベーシック	公共・地域マネジメント	プラス	長期インターンシップ
	サブ・シヨップ	マネジメントアドバンス	会計アドバンス	オペレーションズ・マネジメント			

### 【スポーツに関係する仕事に就きたい】

職業例: スポーツクラブのスタッフ、広告代理店・イベント会社の企画担当者 など

例8	メイン・ショップ	マネジメント ベーシック	会計ベーシック	ヘルスケア・マネ ジメント	スポーツ・マネジ メント
	サブ・ショップ	国際社会と 異文化理解	マネジメント アドバンス	情報とメディア	公共・地域 マネジメント

### 【会計・経理の技能を磨き、スペシャリストとして活躍したい】

職業例: 公認会計士、税理士、企業の経理担当者 など

例9	メイン・ショップ	マネジメント ベーシック	マネジメント アドバンス	会計ベーシック	会計アドバンス	プラス	短期 インターンシップ
	サブ・ショップ	情報とメディア	経済学・ ファイナンス	オペレーションズ・ マネジメント			

### 【お客様をもてなし、商品やサービスを提供して喜んでもらいたい】

職業例: ホテル・旅行・冠婚葬祭等サービス業のスタッフ、小売業の販売スタッフ など

例10	メイン・ショップ	国際社会と 異文化理解	マネジメント ベーシック	国際ビジネス	オペレーションズ・ マネジメント	プラス	スタディー・ アブロード
	サブ・ショップ	会計ベーシック	公共・地域 マネジメント	ヘルスケア・マネ ジメント			海外 インターンシップ

### 【ITを活用して新しい価値を創造したい】

職業例: システムエンジニア・プログラマ・ITスペシャリスト など

例11	メイン・ショップ	マネジメント ベーシック	情報とメディア	会計ベーシック	オペレーションズ・ マネジメント	プラス	短期 インターンシップ
	サブ・ショップ	マネジメント アドバンス	経済学・ ファイナンス	現代社会の教養			専門入門演習

### 【自分の作品が残る仕事がしたい】

職業例: クリエーター・広告制作・商品企画・音楽関連・出版 など

例12	メイン・ショップ	国際社会と 異文化理解	マネジメント ベーシック	情報とメディア	オペレーションズ・ マネジメント	プラス	スタディー・ アブロード
	サブ・ショップ	国際地域	マネジメント アドバンス	現代社会の教養			

### 【まずはビジネスパーソンをめざし、時間をかけてキャリアを考えたい】

例13	メイン・ショップ	国際社会と 異文化理解	マネジメント ベーシック	会計ベーシック	公共・地域 マネジメント	プラス	スタディー・ アブロード
	サブ・ショップ	マネジメント アドバンス	国際ビジネス	情報とメディア			専門入門演習

## 2 履修のルール

### 【履修要件】

- ①1年次および2年次は、原則として上位年次の授業科目は履修できません。
- ②同一の授業科目を重複して履修することはできません。
- ③年間の履修単位数は、共通教養科目および専攻科目をあわせて44単位を上限とし、半期の履修単位数は31単位を上限とします。ただし、資格教育課程（教職課程など）の科目は履修制限の枠外とします。また卒業年次生については、年間50単位を上限とします。
- ④前学期の成績優秀者（教職関係科目を除き、前学期の修得科目全素点平均85点以上、または履修登録科目全素点80点以上の者）は、半期6単位、年間12単位まで履修単位数の制限を超えて履修登録することができます。この場合は、学期開始当初に学部長に申請してください。

### 【専攻科目の卒業要件単位数（p47参照）】

- ①必修科目については、「専門演習科目」を8単位、「エントリー科目」を14単位修得しなければなりません。
- ②選択科目については、下記の履修ルールにしたがって70単位以上を修得しなければなりません。
- ③他学部他学科開講の専攻科目の単位を修得した場合、20単位まで「副専攻・他学部ショップ」として卒業要件単位数に算入することができます。ただし、経営学部開講の授業科目と同一の科目の履修は認められません。
- ④学外単位認定制度（p46参照）にもとづく単位は、「学外認定科目」として卒業要件単位数に算入することができます。
- ⑤スタディー・アブロード（SA）プログラム、ビジネス・スタディー・アブロード・プログラム（BSAP）および派遣交換留学における語学科目の修得単位については、「選択外国語科目」として卒業要件単位数に算入することができます。（p47参照）

### 【ショップ科目の履修ルール】

- ①1つのショップの中から12単位以上単位修得したショップをメイン・ショップとし、また、6～11単位修得したショップをサブ・ショップとします。
- ②メイン・ショップとサブ・ショップの単位数を合計して卒業要件単位数を計算します。（修得単位が6単位未満のショップの単位は、卒業要件単位数に算入することはできません。）
- ③卒業要件単位数に算入できるサブ・ショップの数は、メイン・ショップの数までとします。
- ④オールマイティ科目は、1つの通常ショップに1科目を割り当てなければなりません。ただし、1つの通常ショップにオールマイティ科目を2科目以上割り当てることはできません。
- ⑤他学部・他学科開講の専攻科目の単位を修得した場合、副専攻・他学部科目ショップとして20単位まで卒業要件単位数に算入することができます。なお、本学部開講の授業科目と同一授業科目を履修することはできません。
- ⑥ビジネス・スタディー・アブロード・プログラム（BSAP）、派遣交換留学として1年以上留学し、修得した科目（語学科目を除く）は留学プログラムⅠ・Ⅱの2ショップ（最大合計40単位）の単位として一括認定します。また、留学期間が半年間の場合は留学プログラムⅠショップ（最大合計20単位）の単位として一括認定します。
- ⑦体験型学習科目、選択外国語科目および学外認定科目は、ショップ科目の枠外で卒業要件単位数に算入することができます。

## 3 進級および卒業の要件

### 【進級要件（2年次から3年次）】

経営学部では、2年次から3年次に進級する段階で必要な単位を修得していなければ進級できない制度を採っています。この制度は自己の科目履修計画に従って着実に学修が進んでいるかを確認し、必要に応じて履修計画の見直しや学修生活の改善を図るために設けられています。

進級要件は、2年次終了までに合計50単位以上の単位修得です。この50単位のうちには、FYS（2単位）の他に、外国語科目、健康科学Ⅰ・Ⅱ、教養演習、エントリー科目のうちから18単位が必ず含まれていなければなりません。

もし、この要件を満たすことができず、3年次に進級できなくなった場合には、大学を4年間で卒業できないという事態になります。さらには、在学4年を超えて進級要件を満たすことができない場合は除籍されるので、1年次から進級要件を確認しながら履修計画を立て、必要な科目は最優先で確実に履修することが大切です。

#### 【卒業要件】

本学部を卒業して学士（国際経営学）の学位を取得するためには、本学に4年以上在学し、学則に定める卒業要件単位数124単位を修得しなければなりません。この124単位は卒業する上で必要な最小限の要件であり、各人の希望と必要によりそれ以上の科目履修と単位修得ができます。確実に卒業できるよう、ある程度の余裕をもって科目履修を行うことが求められます。

#### 【卒業見込証明書特別交付申請者の取扱い】

卒業見込証明書発行基準（下記参照）に満たない者の卒業見込証明書の発行は、「卒業見込証明書特別交付願」を教務課に提出し、次表の単位数に応じて経営学部長による書類審査もしくは面接審査によって、発行の可否を判断することとする。

#### 【前学期】

卒業要件単位数	卒業見込証明書発行単位数	書類審査	書類+面接審査	発行不可
124	93 以上	92～90	89～85	84 以下

#### 【後学期】

卒業要件単位数	卒業見込証明書発行単位数	書類審査	書類+面接審査	発行不可
124	109 以上	108～106	105～101	100 以下

#### 卒業見込証明書発行基準

4年次に在学し、下記の単位を修得した者、または条件を満たした者について発行される。

- (1)（4月1日現在）学則所定の「卒業要件単位数」の3/4以上を修得した者
- (2)（10月1日現在）学則所定の「卒業要件単位数」の7/8以上を修得した者  
（ただし、4月1日現在で3/4の条件を満たした者を除く）

※上記(1)および(2)の要件に満たない者については、別に定める「取扱い」により、特別に経営学部長の許可を得た場合に、発行を認めることとする。